
白が紅を掻き立てて

三編

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

白が紅を掻き立てて

【Nコード】

N3716S

【作者名】

三縞

【あらすじ】

彼女を突如襲った衝動。

それは、彼女に新たな出会いと変化をもたらし始めた。

普通なようできてどこか変態染みている主人公の日常をゆるく書き綴っていく予定。

プロローグ

―ああ、誰かに爪痕を残したいな。

自身の長く伸びた爪を眺めながら、早瀬凜子^{ハヤセリンコ}は唐突にそう思った。

退屈な歴史の授業、だらだらとそれを説明する教師の声。

それらは凜子に眠気を与えるばかりで、ちっとも頭に入ってはくれない。

眠ってしまうよりはマシだろうと、その授業の時はいつもつらつらととりとめのないことを考えるのが常となっていた。

―その日はたまたま、自身の手を見ていた。

ペンの持ち方に癖があるのか、どうにも爪が手のひらに刺さって痛い。

原因のひとつに、伸びすぎた爪があるようだった。

一度手を広げる。見れば、色素の薄い肌にくつきりと、大小さまざまに紅月が並んでいた。

それを目にした途端、冒頭のような…、爪痕を残したい、という思いが降って湧いたのである。

普段の想像力の無さが嘘であるかのように（彼女はいつも現実的過ぎるのだ）、爪痕を残すという空想が止まらない。

誰かに爪をたて、紅の軌跡を残す。

それはとても、キモチイイに違いないー…。

ぞくぞくと背筋に何かが走る。

その甘美な想像は、密やかに、熱く、彼女の胸を掻き立てる。

どうしてそんな考えが生まれたのかはわからなかった。

けれど、ふたつばかり気づいたこともあった。

ひとつめは、この考えが、自分をひどく興奮させるということ。

そして、この考えを…欲求を、…満たしたい。

その、自身が持て余す程の衝動を身に抱えてしまったという事実。

それだけであった。

今すぐにでも思いを遂げたいと思う一方、頭の片隅で彼女の冷静な部分は囁く。

この欲求は世間一般で、“アブノーマル”に位置されるものだ。

そしてこの欲求は普通の“普通な自分”を守るために抑えつけないければならないものであると。

彼女は理解していた。

けれど、自制が効くかどうかはまた別問題であったのだ。

かくして、彼女の欲求不満な日々が訪れようとしていた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3716s/>

白が紅を掻き立てて

2011年10月8日22時43分発行